

第6回

---

京都都市緑化  
写真コンクール  
入賞作品集

---

(平成2年度)

## 入賞作品一覧

# 主旨

緑とオープンスペースは、大気の浄化・気温の調節など良好な環境づくりに大切な役割をはたしているほか、潤いある生活環境の確保、レクリエーションの場の提供など多くの役割を担っており、安全で快適な都市環境の形成に欠くことのできないものです。

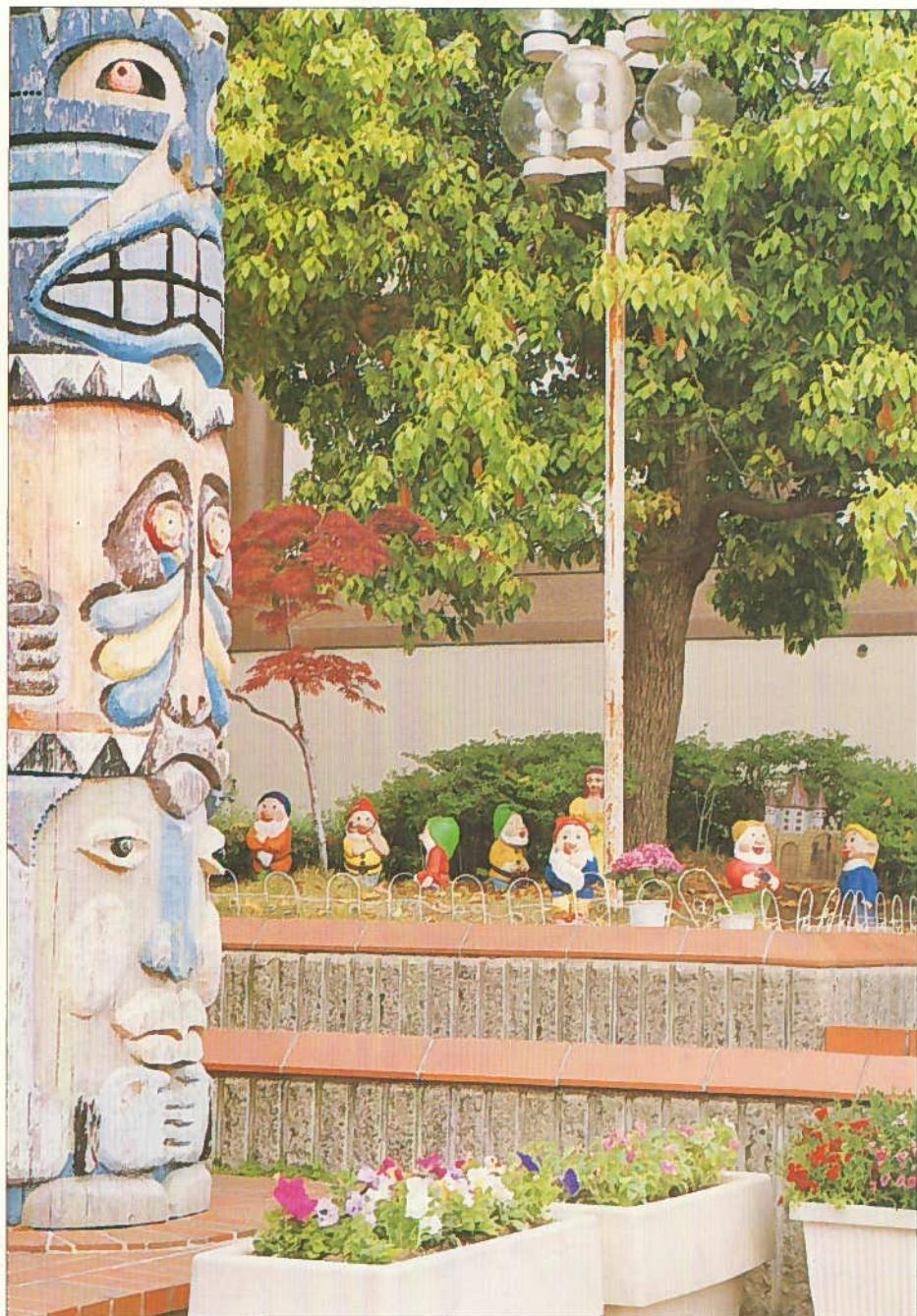
このような緑の重要性と都市緑化の必要性に対する理解を深めるために、10月を「都市緑化月間」と定め、今年度も全国各地で緑と公園に関するさまざまな行事が行われています。

京都では、この「都市緑化月間」の行事のひとつとして「街の緑と公園」「身近かな小さな緑」などを主題とした「第6回京都都市緑化写真コンクール」を行い、多数の応募作品の中から入選作品として優秀な作品33点を選びました。

主催 京都府都市計画協会  
共催 京都府・京都市  
(社)京都府造園建設業協会

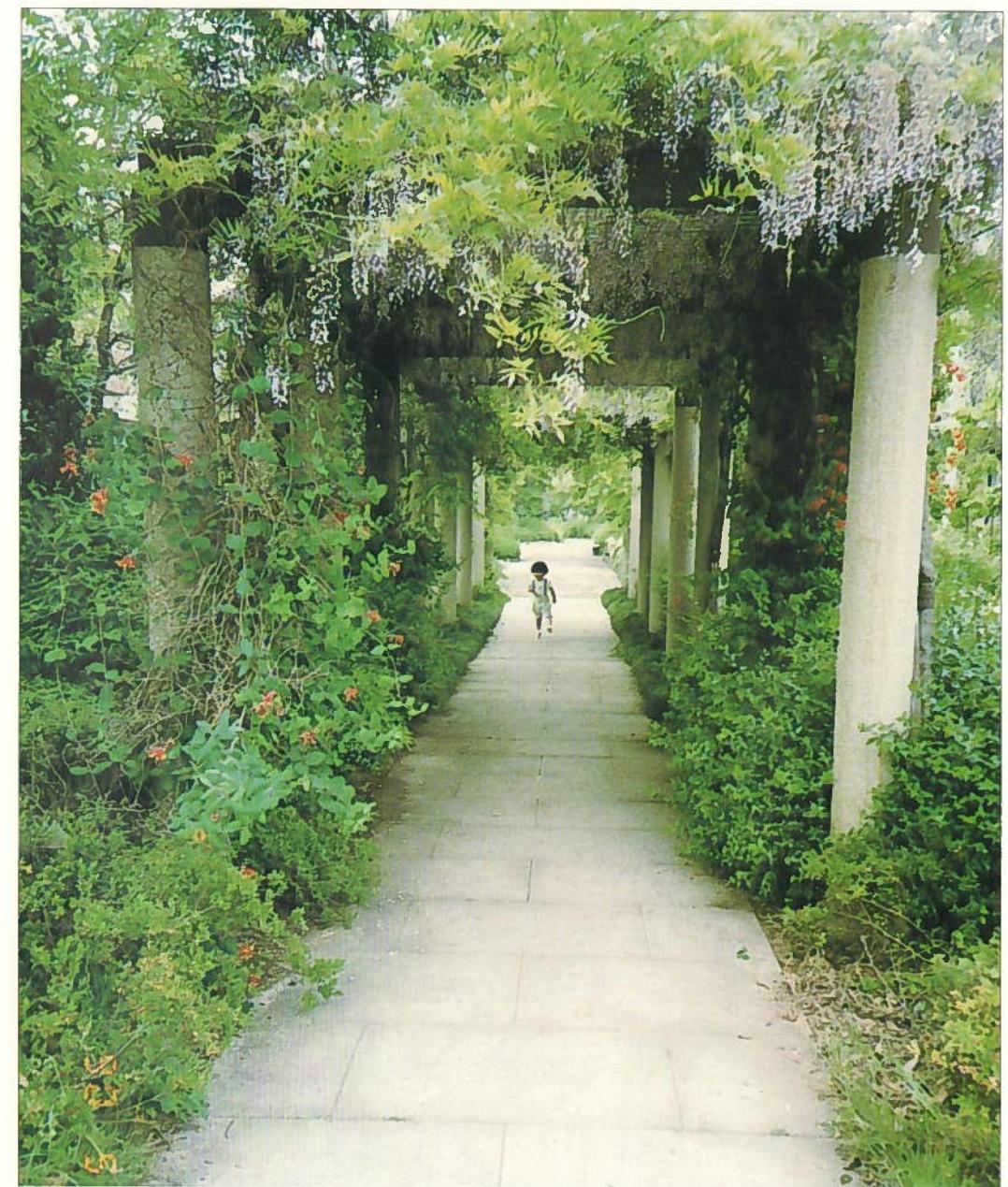
京都府知事賞	「花と緑とメルヘンと」	嶋田 孝正
京都市長賞	「花のトンネル」	田中 茂美
(社)京都府造園建設業協会長賞	「ゆめの山のみどり」	西 義雄
優秀賞1	「護岸の緑」	古谷 正己
2	「緑の下でレッスン」	金井 昇
3	「緑のフェンス」	河田 京子
4	「街のオアシス」	中川 敦夫
5	「街のオアシス」	久保田 茂
6	「雑草を刈っている女(ヒト)」	清水 信男
7	「緑と小川(A)」	神内 宏輝
8	「海の側(そば)にあるポケットパーク」	藤原 明
9	「憩いの広場」	河村 時雄
10	「やすらぎの木陰」	畠 精一
佳 作 (順不同)	「京都っていいな、文化都市で、こういう情景が、すぐそばで見られるよ」	
	「パパお帰り!!」	安藤 業
	「憩いの公園」	橋本 健治
	「グリーンベルト」	前川 敏彦
	「白川の清流」	上野 義一
	「楽しい緑の園」	斎藤 栄一
	「緑の中」	斎藤 かの
	「緑の道」	南部 齊
	「マイガーデン」	三宅 次男
	「緑の下で」	松岡 せい
	「足を延して散歩すれば」	鷺見 文
	「緑のトンネル」	長岡 隆男
	「楽しい公園」	西垣源一郎
	「生垣の続く径」	谷口 誠勝
	「緑の並木道」	谷口 一男
	「憩う」	有川 正治
	「太陽が丘」	永井 博
	「雨中の緑」	一井 由清
	「緑色の憩い」	中野 豊
	「晩秋の遊歩道」	藤本 正則
	「下校時間」	関本 信夫

— 京都府知事賞 —



「花と緑とメルヘンと」 嶋田孝正

— 京都市長賞 —



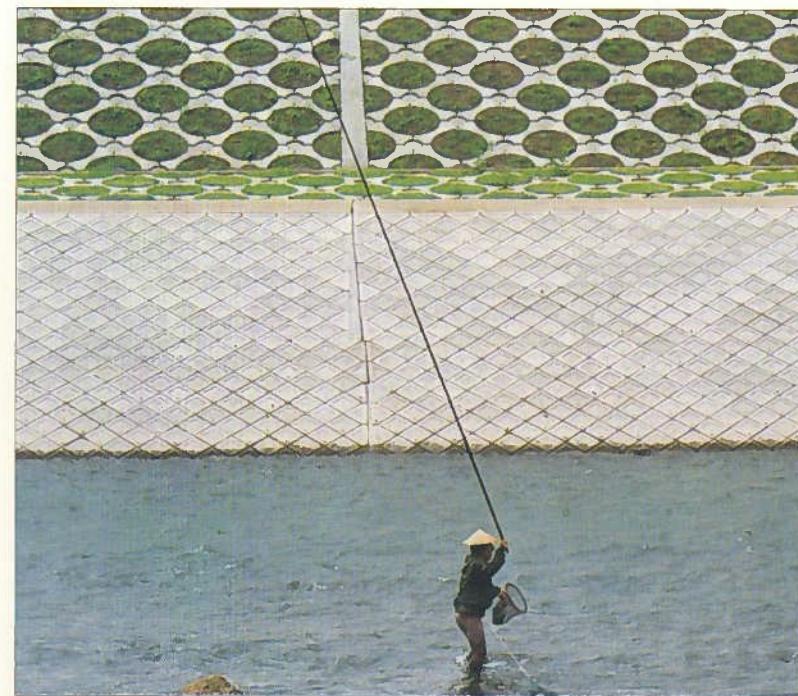
「花のトンネル」 田中茂美

—(社)京都府造園建設業協会長賞—



「ゆめの山のみどり」 西 義雄

— 優秀賞 —



「護岸の縁」 古谷正己



「縁の下でレッスン」 金井 昇

— 優秀賞 —



「緑のフェンス」 河田京子



「街のオアシス」 中川敦夫

— 優秀賞 —



「街のオアシス」  
久保田 茂



「雑草を刈っている女(ヒト)」  
清水信男

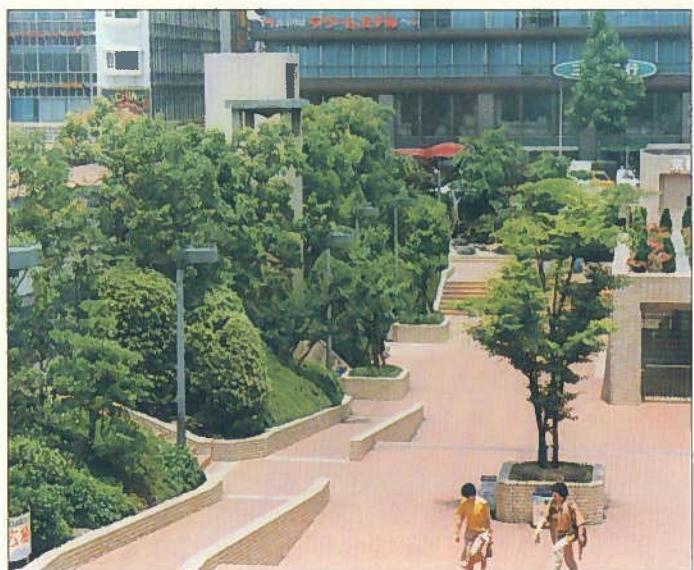


「緑と小川(A)」  
神内宏輝

— 優秀賞 —



「海の側(そば)にあるポケットパーク」  
藤原 明

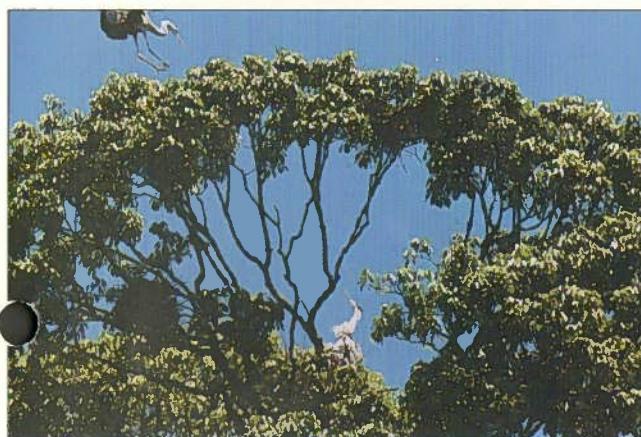


「憩いの広場」 河村 時雄



「やすらぎの木陰」 畑 精一

— 佳作 —



「京都っていいな、文化都市で、こういう情景が、すぐそばで見られるよ  
「パパお帰り!!」 安藤 業



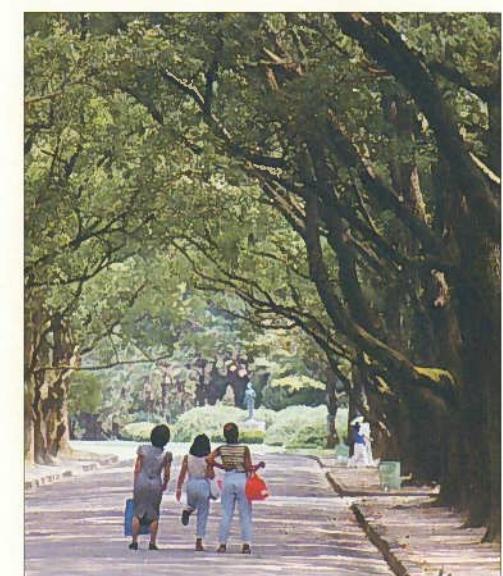
「憩いの公園」 橋本 健治



「グリーンベルト」 前川 敏彦



「白川の清流」 上野 義一



「楽しい緑の園」 斎藤 栄一

—佳作—



「緑の中」 斎藤かの



「緑の道」 南部 齊



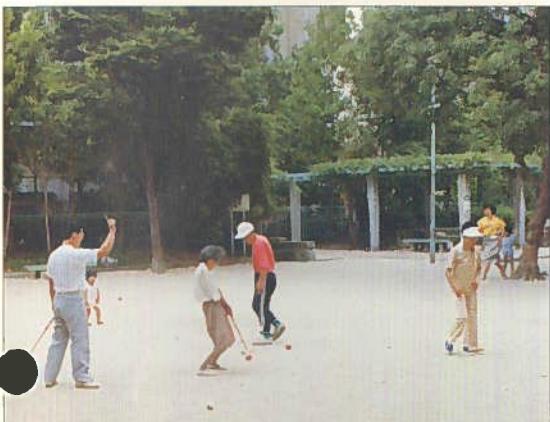
「緑のトンネル」 長岡隆男



「緑の並木道」 谷口一男



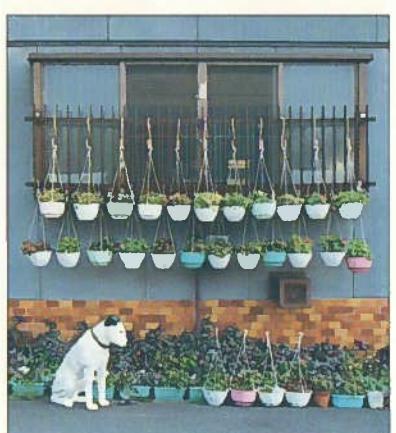
「緑の下で」 松岡せい



「楽しい公園」 西垣源一郎



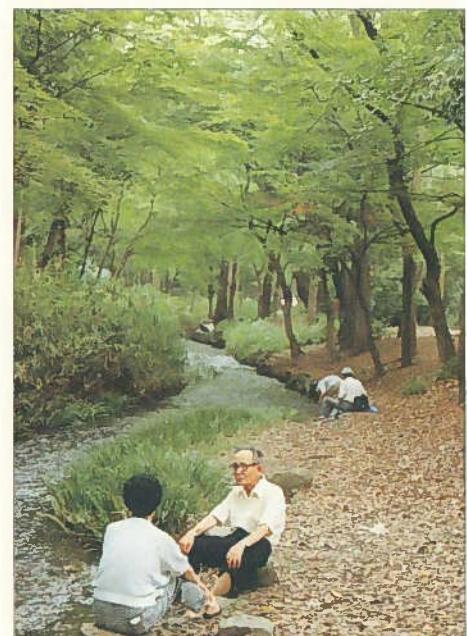
「生垣の続く径」 谷口誠勝



「マイガーデン」 三宅次男



「足を延して散歩すれば」 驚見文



「憩う」 有川正治

## —佳作—



「太陽が丘」 永井 博



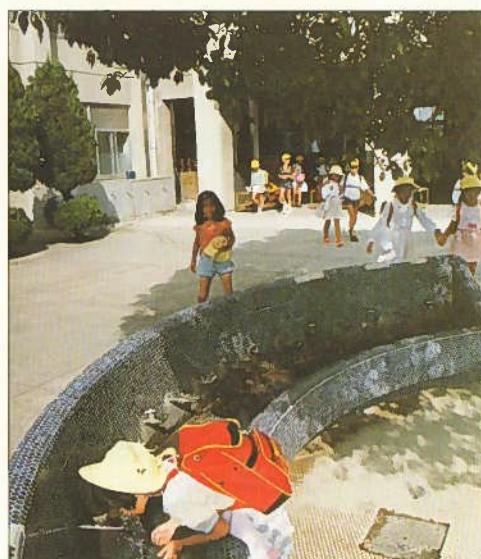
「雨中の緑」 一井由清



「緑色の憩い」 中野 豊



「晩秋の遊歩道」 藤本正則



「下校時間」 関本信夫

## 第6回京都都市緑化写真コンクール 講評

古都保存文化写真協会会長

写真作家 小林文司

今年も八月から九月にかけて約四十日間欧州七か国を取材旅行し、帰国後間もなく第六回京都都市緑化写真コンクールの審査に当たる今、応募作品全体を見て、なんとなくやぼったく、花の都、緑の路といったセンスのものはありません。でも、それはやむを得ないでしょう。

京都は日本の古都、優れた宮廷の庭苑や社寺、町家の立派な庭は数多くあっても、これらは身近な緑とはいえません。憩いの場にはなりません。

私の専門ではないので詳しいことは知りませんが、京都は、古都保存の大変な役割もあって、条例もあり、近代的な都市計画案があっても、近隣都市のように新しもの食いという訳にはいかないと思います。気軽にさわってもらってはなりません。こしらえてもらっては困ります。そういう意味では京都市は緑の新しい施設造りには、ジレンマ的な悩みがあると察しています。

過去五回の審査を行ってきて、私の望んでいた、私の描いていたイメージの作品作りは古都京都においてはいささか無理といえるでしょう。応募の皆さんもさぞかし作品作りに苦労されたことと思います。

今年も全体的作品レベルは余り向上していませんが、上位三賞の作品はなかなかの出来栄えで斬新なものです。そしてその三賞がベテラン常連と交代しました。中でも三賞二位に女性が入賞したことは誠に喜ばしい事です。

今後の作品作りについてアドバイスするならば、施設の情報をよくキャッチし、よく歩き回り、撮影場所、モチーフを発見し、そして、そこに少なくとも二、三度足を運び、異なる角度から撮影を試みることです。安易なことでは重厚な作品は出来ません。

第七回の応募に多大の期待を寄せています。

- 主催 / 京都府都市計画協会
- 共催 / 京都府・京都市・社京都府造園建設業協会
- 後援 / 建設省、京都府公園公社、京都府市長会、京都府町村会、  
京都新聞社、KBS京都、NHK京都放送局
- 協賛 / 京都府造園組合連合会、京都府写真材料商業組合、  
日本造園修景協会京都府支部、コニカ(株) (順不同)